

バトンが引き継がれて

高校化学グランドコンテスト実行委員会顧問
大阪公立大学・芝浦工業大学
客員教授 中沢 浩



高校化学グランドコンテストは高校生の化学研究および発表活動を支援することを目的として、2004年に大阪市立大学を中心に設立され、それ以来継続されてきた化学教育支援事業です。設立当初は関西圏の高校のみからの参加でしたが、その後徐々に参加数が増え、現在では全国からエントリーを受け付けるようになりました。2013年開催の第10回コンテスト以降は海外（台湾とシンガポール）から優秀な高校生を招へいする国際大会となりました。加えて翌2014年以降は本コンテストで優秀な成績を収めた日本チームが海外で開催される国際サイエンスフェアに招待されるようになり、まさに国際的な事業となり、2019年開催の第16回コンテストでは日本全国から130チーム、海外から3チームの参加をいただきました。

本コンテストを通して私は日本の高校生達と接してきました。彼らは自ら化学研究を行い、その成果を人前で発表するごとに自信を付けてたくましくなりました。また海外の高校生が参加するので発表は英語でとお願いすれば英語で素晴らしいプレゼンを行い、海外に招待されれば他国の高校生と友達になり、化学においては世界と互角に競って賞を取ってくることも行ってくれました。日本の高校生は化学的探求心とグローバル化に対して高いポテンシャルを持っていること、そして我々がそれなりの舞台を用意して彼らの背中を少しだけ押してあげれば、一段と飛躍することを知り、高校生達から本コンテストの重要性を教えられました。

2020年になると本コンテストを取り巻く状況が一変しました。世界がコロナ禍に見舞われ、同年の本コンテストは開催できず、2021年も対面ではなくオンラインでの開催を余儀なくされました。加えて、2022年はそれまで本コンテストを主催してきた大阪市立大学が大学統合により大阪公立大学となり、それに伴い本コンテストの主催が困難となりました。19年の歴史をもち、国際規模の化学コンテストにまで成長した本事業が消滅するのは忍びないとの思いから、継承していただける機関を探して参りました。その結果、芝浦工業大学が趣旨に賛同して、そのバトンをしっかり受け取っていただきました。日本の化学を背負っていく若い人材を育てていく本事業が継続できることに感謝しています。本コンテストが芝浦工業大学主催のもとで益々発展することを切に願っています。

